

# 平成 22 年度 事業報告

## 1 事業の成果

平成 22 年度は、世田谷区駒沢地区を主な活動場所として、環境学習・教育事業、環境保全に関する普及啓発事業、情報収集及び情報提供事業を行った。

5 月には定例講演会が 100 回を向かえたことを記念した記念講演会を実施したほか、11 月には他団体との協力による公開シンポジウムを開催した。

また、平成 23 年 3 月 2 日には世田谷区が設けている環境表彰制度において、環境保護・啓発部門での表彰を受けた。

### 【環境学習・教育事業】

環境学習・教育事業としては、前年度に引き続き、「子ども環境カレッジ」と題し、GE カレッジホールを利用した「夏休み☆環境＋生きもの体験」及び駒沢地区の住宅地と公園における鳥類の観察会を実施した。また、世田谷区駒沢地区において一般市民を対象とした定例講演会を 7 回開催した。そのうちの 1 回（5 月）は 100 回目の記念講演会として開催した。

### 【環境保全に関する普及啓発事業】

環境保全に関する普及啓発事業としては、2009 年度の活動をまとめた「GEC 活動報告書 2010」を作成し、会員及び観察会や講演会の参加者に配布したほか、ホームページによる情報の発信を行った。

さらに、他団体とともに「漁業用水問題研究会」を結成し、主として漁場環境としての内湾・沿岸について、その現状と抱えている問題を認識し、課題解決への道を模索することを目的として、公開シンポジウムを開催した。

### 【情報収集及び情報提供事業】

情報収集及び情報提供事業として、神奈川県環境科学センターが実施している「河川のモニタリング調査」の調査方法や生物同定支援のために、SNS サーバーを利用した仕組みを提供しているほか、業務受託による内湾域の再生方策や沿岸域の環境保全に関する調査・研究を行った。

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲および人数	支出額(千円)	
環境学習・教育事業	子ども環境カレッジ 生き物観察・水質分析 などに関する実験等	8月28日(土) (13時~17時)	世田谷区 駒沢	16人	小学生・幼児、保護者 (14人, 12人)	87	
	子ども環境カレッジ 住宅地・公園の身近な 冬鳥観察会	2月5日(土) (9時~12時)	世田谷区 駒沢	7人	小学生・幼児、保護者 (5人, 4人)	24	
	環境保全に関する 普及啓発 事業	環境保全に関する講 演会、 セミナー、 シンポジウム等	4月19日(月)	世田谷区 駒沢 (9月3日は 静岡で開催)	5人 /1回	一般市民 173人	952
			5月24日(月)			173人	
6月7日(月)			153人				
9月3日(金)			111人				
10月4日(月)			103人				
12月13日(月)	122人						
1月24日(水)	95人						
環境保全に関する 普及啓発 事業	ホームページの運営	年間	世田谷区 駒沢	30人	一般市民 (不特定多数)	114	
	活動報告書の作成	5月発刊	世田谷区 駒沢	15人	一般市民 (発行部数 2,000 部)	800	
	漁業用水問題に関する シンポジウム	11月25日(木)	世田谷区 駒沢	25人	140人	909	
	「東京湾の環境をよく するために行動する会」への 参画	12月~1月	中央区 築地	1人	一般市民 (150人程度)	0	
情報収集 及び情報 提供事業	沿岸域の環境保全対策 の調査研究	4月~3月	世田谷区 駒沢	40人	水産関係会員 (20人)	905	
	内湾域を豊かな海に 再生するための方策 調査研究	4月~3月	世田谷区 駒沢	40人	水産関係会員及 び関連分野研究者 (30人)	1,000	
	「神奈川県河川のモニ タリング調査」への サーバー提供	4月~3月	世田谷区 駒沢	2人	主に神奈川県民 (50人)	0	

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び 予定人数	支出 (千円)
	実施せず					

2 事業の実施に関する事項

NPO 法人 地球環境カレッジ 平成 22 年度開催事業一覧

日 時	事 業	備 考
4 月 19 日(月)	●第 99 回 (平成 22 年度第 1 回) 定例講演会 『河川環境行政の変遷ー近世から近代そしてポスト 近代へー』	竹村 公太郎 先生 (財団法人リバーフロント整備セン ター 理事長)
5 月 24 日(月)	※理事会・第 7 回通常総会  ●第 100 回記念講演会 (平成 22 年度第 2 回定例講演 会) 『地球環境カレッジのあゆみ ～環境教育への思い ～』  『これからの環境問題ーサステイナビリティ学と 共生学の役割、持続可能な社会実現への条件』  ◇GEC 活動報告書 2010 発刊	田畑 日出男 理事長 (NPO 法人地球環境カレッジ 理事 長) 松尾 友矩 先生 (東洋大学 理事)
6 月 7 日(月)	●第 101 回 (平成 22 年度第 3 回) 定例講演会 『水産分野における海洋観測情報の活用』	渡邊 朝生 先生 (独立行政法人水産総合研究センタ ー中央水産研究所 海洋データ解析 センター長)
8 月 28 日(土)	○子供環境カレッジ 「夏休み☆環境+いきもの体験」	GEC ホール 26 名参加 (小人 14, 大人 12)
9 月 3 日(金)	●第 102 回 (平成 22 年度第 4 回) 定例講演会 『サバにマグロを産ませる ～代理親魚技術の開発 ～』	竹内 裕 先生 (東京海洋大学 先端技術研究センタ ー 准教授)
10 月 4 日(月)	●第 103 回(平成 21 年度第 5 回)定例講演会 『今後期待される環境管理手法ー日本版 WET 導入の 最新動向』	鑓迫 典久 先生 (独立行政法人国立環境研究所 環境 リスク研究センター 環境暴露計測研 究室 主任研究員)
11 月 25 日 (木)	◇公開シンポジウム 【内湾の機能回復のための海と陸からのアプローチ】  ・『内湾の水質環境の現状と課題』  ・『内湾の物質循環機能と保全』  ・『河川を通じた土砂供給と汽水域環境』  ・『森林からの物質供給』	主旨説明：平野敏行監事  鈴木 輝明 先生 (名城大学大学院総合学術研究科 特任教授) 中田 喜三郎 先生 (東海大学海洋学部 教授) 横山 勝英 先生 (首都大学東京都市環境学部都市基 盤環境コース 准教授) 大槻 恭一 先生 (九州大学大学院農学研究院 環境農 学部門森林環境科学講座 教授)

日 時	事 業	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『都市域からの物質供給』</li> <li>・『農地からの物質供給』</li> <li>・総合討論</li> </ul>	田中 宏明 先生 (京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター 教授) 白谷栄作 先生 (農村工学研究所 水環境保全研究室 室長) コーディネータ：原武史理事
12月 13日(月)	●第104回(平成21年度第6回)定例講演会 『朱鷺の話ー野生復帰から私たちは何を学んだらよいか』	山岸 哲 先生 (財団法人山階鳥類研究所 名誉所長、新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター センター長)
1月 24日(月)	●第105回(平成22年度第7回)定例講演会 『変わりゆく白い海、北極海 ～南極の氷は石鹼、北極の氷はシャボン玉～』	島田 浩二 先生 (東京海洋大学海洋科学部海洋科学科 環境システム科学講座 准教授)
29日(土)	◇「東京湾フェスタ」(主催：東京湾を良くするために行動する会)	築地市場内東京都講堂 企画・運営協力
2月 5日(土)	○子ども環境カレッジ 「鳥みつけ! & とりパン入門」	GEC ホール・駒沢緑泉公園ほか 9名参加(小人5, 大人4)

○環境学習・教育事業 (子ども環境カレッジ)

●環境学習・教育事業 (環境保全教育に関する講演会、セミナー、シンポジウム等)

◇環境保全に関する普及啓発事業

△情報収集及び情報提供事業

## 事業報告参考資料

### 収益事業の内容

件名	発注者	事業の内容
沿岸域の環境保全対策の調査研究	新日本環境調査(株)	水産関係を専門とする会員が毎週1回程度勉強会を開き、新日本環境調査が受託した関連業務を題材にして、沿岸域の環境保全対策について意見交換するとともに必要な技術指導を行った。
内湾域を豊かな海に再生するための方策調査研究	新日本環境調査(株)	豊かな海としての海域生産、水産から望まれる水域環境、そのための検討内容、等について会員及び水産等研究者と検討会を開催し、有明海を対象としたケーススタディを行った。